

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171400765		
法人名	特定医療法人 富田病院		
事業所名	高齢者グループホーム あねもね あね棟		
所在地	北海道函館市日吉町4丁目7番83号		
自己評価作成日	令和3年2月1日	評価結果市町村受理日	令和3年3月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvsoyoCd=0171400765-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kan=true&amp;JigvsoyoCd=0171400765-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月4日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ご本人様がこれまで行ってこられた事が継続できるように、お手伝いさせて頂いている。</li> <li>・穏やかな生活の中にも役割や生きがいを感じて頂けるように、職員一同心掛けています。</li> </ul>
--

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホームあねもね」は周囲が木に囲まれた丘にあり、小鳥のさえずりが聞こえ、中庭には時々雉の姿が見える自然豊かな場所に立地している。運営母体は特定医療法人であり、函館市内で内科・呼吸器科・神経内科・整形外科など多数の診療科を有し、かかりつけ医や地域包括支援センターと連携を図り、認知症の専門医療を提供している病院である。建物は平屋建ての正面玄関を中心に左右に1ユニットずつに分かれた2ユニットの事業所である。町内との交流も多く、事業所の夏祭りには高校や専門学校の生徒がボランティアとして参加し、近所の保育園からは敬老会やクリスマス会にお遊戯の慰問がある。職員は理念を常に意識付けし、さらに年度当初に個人目標を立て、年度途中にはどこまで達成できたかを勉強会で振り返り、年度末に向けてさらに達成できるよう日々努力し、事業所の接遇の3つのポイント声かけ・傾聴・身だしなみを意識してケアを行っている。毎月、教育委員会を中心にテーマを決めて勉強会を行っている。職員同士のコミュニケーションもよく、介護が初めての新人が入社すると職員全体で温かく見守りながらケアの質を高められるように声かけをしていく、やさしさと明るさが溢れる事業所である。</p>
--

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(安寧棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の掲示にて共有し実施している。また、理念についての勉強会などで再確認をしている。	理念は各所に掲示され常に意識付けしている。教育委員会が毎月テーマを決めて勉強会を開いている。年度当初に個人目標を立て、年度半ばでどこまで達成できたか一度振り返り、理念に添ったケアが出来るよう日々実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の写真の発注やおやつの買い物などは近所のコンビニを利用し地域との繋がりを持っている。	例年は近所の保育園から敬老会やクリスマス会に慰問があり、事業所の夏祭りには介護福祉関係の学校からボランティアが訪れるが、今年度は感染症対策のため中止となっている。近所の福祉コミュニティエリアの連携協議会の会議に参加し情報交換を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年近隣の保育園より歌や踊りの発表の場として当施設へ来て頂いている。新型コロナ感染拡大防止の為、今年度は行き来を控えていたが、ホームでの暮らしがわかるような資料を地域へ発信し、ご意見、ご感想を頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者さまの生活を報告し、行政機関やご家族との情報交換を行っている。	感染症予防のため書面での開催とし、事業所での活動報告などと共に家族の希望や要望の記入用紙を同封したところ、日常の食事のメニューや職員の顔を知りたいなど多数の返信があり、その一つひとつに回答出来るものは写真付きで次回の会議の案内と一緒に送付している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や業務に関する相談を通じて協力している。	市役所からは介護保険の更新時に来所があり本人と面会し、生活保護の担当者も半年に一度の来所があり、介護研修の案内や、医療券助成申請などのサービスの情報を得ている。利用者のケアプランが更新されると送付するなどし、双方向での協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者さま本位のケアを実施している為、拘束を行う要素はない。	身体拘束廃止委員会を中心に1か月に一度、勉強会を開催している。レジメに事例を載せ、どのように対応するかを職員に求め、集計結果を休憩室に置き周知徹底している。休憩室にはマニュアルを常備し身体拘束のないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ご家族および職員間で情報交換を行う事で虐待や虐待と思われる介護をしない事を心掛けている。また、教育委員会で勉強会を開催している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(安寧棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談業務を担う職員を窓口とし、相談があった場合は支援している。状況に応じて研修への参加を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を利用している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に運営推進会議を利用している。また、ご家族さまとお会いした時やお電話などでご意見・ご要望がないかお聞きしている。	書面による運営推進会議での家族からの回答で意見や要望を聞き取り、利用者からは日々の関わりの中でどのように過ごしたいのか、また食べ物などの希望を聞き、それらを運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を利用している。また、日々のケアの中でも適宜話し合いを行ったり、個別に意見などを聞く機会も設けている。	職員会議や日々のケアの中でも意見を聞く機会を設け、業務改善やケアの見直しにつなげている。新人に対しては個別に意見を聞く機会を設け、働きやすい環境づくりに努めている。日々の気付きは連絡ノートに記入し、1日2回の申し送りで周知している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とコミュニケーションを取り、個々の能力を見極めてアドバイスしている。職場環境の改善も随時行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修への参加、委員会活動などを通し知識を共有し深めるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルス感染拡大防止の為、今年度は実施できなかったが他のグループホームと合同の勉強会を行っている。(道南グループホーム協会Bブロック)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(安寧棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に情報収集を行っている。会話や動作で困っている事がないかを検討、解決し安心な関係作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談を行い、ご家族並びに利用者さまの生活状況を聴きどのような介護を望んでいるのかをケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に面談を行い、ご家族並びに利用者さまの生活状況を聴き待機期間がある場合は他のサービスの情報を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室掃除や食事作りなど在宅に居る時と同じような生活場面を作り同居者のような関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的到手紙などでご家族さまへ近況を報告している。状況によっては都度ご連絡し相談したり情報を共有し、関係構築に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は感染防止の為控えているが、ご家族と外泊や外出した際に馴染みの場所や馴染みのある方との交流などを図っている。また、ご友人などの電話や手紙でのやりとりをサポートしている。	家族と年賀状の交換を行っており、名前を書く利用者もいる。友人から年賀状や誕生日のお祝いの花が届くこともある。例年は友人の来訪があり、美容院にも出かけているが、今年度は感染症対策のため自粛している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや食事の下ごしらえなどを皆さまで行って頂き、リビングで過ごす時間をなるべく多くとり、利用者さま同士が関わり合える環境を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(安寧棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話にて困っている事がないかなどを伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族からの聴取や生活歴から反映できるようにしている。	日常生活の中で利用者の思いをくみ取り、意向に沿うよう努めている。難しい場合は家族からのバックグラウンドアセスメントを利用し、表情や発した言葉から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの聴取や生活歴から反映できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のサービス提供の中から把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行いモニタリングし、ご本人に合ったニーズ、目標に向かうようにケア担当、計画作成担当者、介護支援専門員が現状に合った計画を作成するよう努めている。	アセスメントをもとにケアカンファレンスを行い、短期目標は3か月で見直している。担当者制を活かし長期目標を立てる前にカンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスシートを使用し介護計画の見直し、日々の申し送りやミーティング、各種委員会活動を通し情報の提供に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	町内会や近隣の保育園へ広報誌をお渡ししている。また、包括支援センター主催で地域の代表や薬局、歯科などと一緒にコロナ対策での情報共有や協力体制をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外食レクなどを通じ社会性が衰えないようにしている。感染予防の為、地域のお店からランチに出前をとったり、ケーキやコーヒーを専門店から調達するなど外食の雰囲気味わって頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは定期的な往診・受診を通じ情報交換を行っている。	かかりつけ医の受診には家族と職員が付き添い、毎週の訪問看護と2週間に1度の往診があり、同じ医師が来所するため情報交換がしやすい環境となっている。24時間の医療体制を取っており、適切な医療を受けられるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価(安寧棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況を看護職へ報告し、判断を仰ぎながら受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族との情報交換、病院からの病状報告を受けながら良好な関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状について、ご家族と共有する際に施設として支援している。	看取りについては入居時に指針を説明し同意を得ている。重度化においては主治医の説明を家族に話し、医療が必要な場合は入院している。職員はターミナルケアについての勉強会を開いている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備や研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を通し行っている。また地域の同じグループホームの中で、災害時の緊急連絡網を作り協力体制を築いている。(道南グループホーム協会Bブロック)	年2回、夜間想定も含め行っている。訓練時に消防署立ち会いのもと、実際に水を利用したの消火活動も行っている。備蓄も水・缶詰・乾物・冷凍食品など十分に用意している。	

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さま本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱く事を基本としている。	排泄介助の時は耳元で声かけをし、入浴介助時は同性介助希望者には同性で対応している。食事は利用者のペースに合わせ時間を気にすることなく食べてもらい、利用者の尊厳を大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さま本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱く事を基本としている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さま本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱く事を基本としている。今、何を望んでいるのか利用者さまの想いに沿って行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、入浴を通し衛生的な身だしなみに努めている。また、日々の生活の中で行事などの時に着る服を選んだりお手伝いをさせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(安寧棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々、食べたい物の要望などを聞いたり、調理や食事、片付けを一緒に行っている。	食事レクやおやつレクを企画し、カレーライスの移動販売車に来てもらったり、有名コーヒーチェーン店のコーヒーとケーキをオーダーするなど、感染症対策のため外出が難しい中でも色々企画し食事を楽しんでいる。食後は利用者本人の意思でお茶碗拭きも行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量などを適宜記録している。利用者さまの嚥下状態に合わせ、食事形態の工夫や食べやすい物へ変更し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。また、夜間の義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し排泄パターンの把握をしたり、声の掛け方やタイミングなども工夫し促している。	排泄パターンを利用しトイレ誘導を行っている。夜間にポータブルトイレを使用する利用者もいる。自立している利用者も多く、入居後に布パンツに変更になった利用者もおり、自立にむけた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や乳製品などの提供や体操なども行って頂き、予防に努めている。また、温罨法やマッサージなども提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の意向に即した入浴を心掛けている。	同性介助にも対応し、週2回の入浴を行っている。脱衣室は温度差が無いように配慮し、浴室は先にシャワーで室内をミスト状にして温めるなど、気持ちよく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間にとらわれずに休めるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示及び看護職員の指導で服薬の知識を深め、情報交換を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人、ご家族から昔楽しかった出来事や催し物の内容を会話の中から情報収集している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(安寧棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ感染拡大防止により、外出の制限を行っている為、天候や意向に合わせてホームの周りの自然の中での日光浴や散歩の機会を作り支援している。	今年度は感染症対策のため外出が難しく、玄関先での日光浴やお茶飲み、菜園での野菜の収穫をしている。移動が困難な場合は車椅子を利用したの散歩で、周りの自然を楽しみ外気浴の機会を支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の状態により行っている。嗜好品の購入など職員が代行し、清算は一緒に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などご本人、ご家族の希望などで行っている。毎月の広報誌などでも近況をお伝えしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃、整理整頓により衛生的な環境作りに努めている。また、季節ごとに飾り付けを行い季節感を実感できるように努めている。	大きな明るい居間兼食堂には小上がりがあり、畳の上で足を伸ばしたり、いつでも横になれる楽しみがある。お正月には職員による獅子舞があり、おみくじを引くなど、季節ごとに趣向を凝らしたイベントを行い、居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人がリラックス出来る場所を確保出来るように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の愛着している物を持ち込んでもらうようにしている。	居室にはクローゼットと洗面台が備えられており、馴染みの物を持参し、遺影に毎日お水をあげる利用者や孫の写真やお気に入りポスターを貼り居心地よく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理、清掃、洗濯などご本人が行えることは、安全面を考慮しながら一緒に行うよう努めている。		

### 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171400765		
法人名	特定医療法人 富田病院		
事業所名	高齢者グループホーム あねもね もね棟		
所在地	北海道函館市日吉町4丁目7番83号		
自己評価作成日	令和3年2月1日	評価結果市町村受理日	令和3年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・ご本人様がこれまで行ってこられた事が継続できるように、お手伝いさせて頂いている。</p> <p>・穏やかな生活の中にも役割や生きがいを感じて頂けるように、職員一同心掛けています。</p>
---

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0171400765-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0171400765-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年3月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(萌芽棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の掲示にて共有し実施している。また、理念についての勉強会などで再確認をしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事の写真の発注やおやつのお買い物などは近所のコンビニを利用し地域との繋がりを持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年近隣の保育園より歌や踊りの発表の場として当施設へ来て頂いている。新型コロナウイルス感染拡大防止の為、今年度は行き来を控えていたが、ホームでの暮らしがわかるような資料を地域へ発信し、ご意見、ご感想を頂いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者さまの生活を報告し、行政機関やご家族との情報交換を行っている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や業務に関する相談を通じて協力している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者さま本位のケアを実施している為、拘束を行う要素はない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ご家族および職員間で情報交換を行う事で虐待や虐待と思われる介護をしない事を心掛けている。また、教育委員会で勉強会を開催している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(萌芽棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	相談業務を担う職員を窓口とし、相談があった場合は支援している。状況に応じて研修への参加を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書を利用している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	主に運営推進会議を利用している。また、ご家族さまとお会いした時やお電話などでご意見・ご要望がないかお聞きしている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を利用している。また、日々のケアの中でも適宜話し合いを行ったり、個別に意見などを聞く機会も設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員とコミュニケーションを取り、個々の能力を見極めてアドバイスしている。職場環境の改善も随時行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修への参加、委員会活動などを通し知識を共有し深めるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナ感染拡大防止の為、今年度は実施できなかったが他のグループホームと合同の勉強会を行っている。(道南グループホーム協会Bブロック)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(萌芽棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に情報収集を行っている。会話や動作で困っている事がないかを検討、解決し安心な関係作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談を行い、ご家族並びに利用者さまの生活状況を聴きどのような介護を望んでいるのかをケアプランに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に面談を行い、ご家族並びに利用者さまの生活状況を聴き待機期間がある場合は他のサービスの情報を検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	居室掃除や食事作りなど在宅に居る時と同じような生活場面を作り同居者のような関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的到手紙などでご家族さまへ近況を報告している。状況によっては都度ご連絡し相談したり情報を共有し、関係構築に努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在は感染防止の為控えているが、ご家族と外泊や外出した際に馴染みの場所や馴染みのある方との交流などを図っている。また、ご友人などの電話や手紙でのやりとりをサポートしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや食事の下ごしらえなどを皆さまで行って頂き、リビングで過ごす時間をなるべく多くとり、利用者さま同士が関わり合える環境を築いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(萌寧棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	電話にて困っている事がないかなどを伺っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族からの聴取や生活歴から反映できるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族からの聴取や生活歴から反映できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のサービス提供の中から把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを行いモニタリングし、ご本人に合ったニーズ、目標に向かうようにケア担当、計画作成担当者、介護支援専門員が現状に合った計画を作成するよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カンファレンスシートを使用し介護計画の見直し、日々の申し送りやミーティング、各種委員会活動を通し情報の提供に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	町内会や近隣の保育園へ広報誌をお渡ししている。また、包括支援センター主催で地域の代表や薬局、歯科などと一緒にコロナ対策での情報共有や協力体制をとっている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	外食レクなどを通じ社会性が衰えないようにしている。感染予防の為、地域のお店からランチに出前をとったり、ケーキやコーヒーを専門店から調達するなど外食の雰囲気味わって頂いている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは定期的な往診・受診を通じ情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(萌芽棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状況を看護職へ報告し、判断を仰ぎながら受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族との情報交換、病院からの病状報告を受けながら良好な関係を築いている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	病状について、ご家族と共有する際に施設として支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの整備や研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を通し行っている。また地域の同じグループホームの中で、災害時の緊急連絡網を作り協力体制を築いている。(道南グループホーム協会Bブロック)		

#### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さま本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱く事を基本としている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さま本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱く事を基本としている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さま本位のケアを実践する上で、尊敬の念を抱く事を基本としている。今、何を望んでいるのか利用者さまの想いに沿って行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整容、入浴を通し衛生的な身だしなみに努めている。また、日々の生活の中で行事などの時に着る服を選んだりお手伝いをさせて頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(萌寧棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々、食べたい物の要望などを聞いたり、調理や食事、片付けを一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量などを適宜記録している。利用者さまの嚥下状態に合わせ、食事形態の工夫や食べやすい物へ変更し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。また、夜間の義歯洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し排泄パターンの把握をしたり、声の掛け方やタイミングなども工夫し促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や乳製品などの提供や体操なども行って頂き、予防に努めている。また、温罌法やマッサージなども提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ご本人の意向に即した入浴を心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間にとらわれずに休めるよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示及び看護職員の指導で服薬の知識を深め、情報交換を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人、ご家族から昔楽しかった出来事や催し物の内容を会話の中から情報収集している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(萌芽棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナ感染拡大防止により、外出の制限を行っている為、天候や意向に合わせてホームの周りの自然の中での日光浴や散歩の機会を作り支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の状態により行っている。嗜好品の購入など職員が代行し、清算は一緒に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などご本人、ご家族の希望などで行っている。毎月の広報誌などでも近況をお伝えしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃、整理整頓により衛生的な環境作りに努めている。また、季節ごとに飾り付けを行い季節感を実感できるように努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人がリラックス出来る場所を確保出来るように努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の愛着している物を持ち込んでもらうようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	調理、清掃、洗濯などご本人が行えることは、安全面を考慮しながら一緒に行うよう努めている。		

目標達成計画

事業所名 高齢者グループホームあねもね

作成日：令和 3年 3月 23日

市町村受理日：令和 3年 3月 30日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	34	新人職員は介護の仕事は未経験での入職である。また、利用者さまの特変時に管理者や経験の長い職員が居ない場合の対応力がやや弱い。	利用者さまの特変時に職員全員が落ち着いて適切な行動ができるようになる。	・施設内での緊急時の対応の勉強会を開催する。 ・マニュアルの整備を行う。	1年
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。